

サマーセミナー 2001 開催報告

橋本 信幸

(シチズン時計)

1. 開催準備

岩瀬扶佐子(古河電工), 天野主税(NTT) 実行委員を含む3名の委員会を組織し1月から活動を行った。日程, 開催テーマ, 宿泊施設をまず決めなくてはならないが, 特に困難をきわめたのは施設の選定であった。予算の都合上, 会議施設とおいしい食事, そして実行委員の趣味もあり温泉付きで低料金という困難な状況の中で宿探しが始まった。その結果, 8月30日(木)~9月1日(土)に簡保の宿, 浜名湖三ヶ日温泉で「ITを支える光技術」のテーマで開催する運びとなった。

続いて講師の先生方に講演依頼をするのだが, どの先生方もご活躍中のご多忙な方々であった。しかし将来の光学会を支える若手の育成と世代を超えた交流を目的とするサマーセミナーの主旨に共感し, 快諾してくださった。委員会としてはたいへんありがたいことであった。

さて4月に入ると委員会の仕事は一段落し, 参加申込みの推移をしばらく見守ることになった。この間は口コミや委員のつてをたどって促進活動を行うのだが, ここ数年と同様に集まり具合はあまりよくなく8月に入っても数名の申込しかない状況であった。これは早期割引等の特典を設けていないことなどの理由によると考えられる。しかし, 締切りに近づくとも申込みは加速されて, 最終的には32名の参加となった。この中にはリピーターも数名おり, サマーセミナーの根強いファンがいることも確かである(何を隠そう筆者も10回以上の参加を誇っている)。

2. セミナーの開催

8月30日1時ごろに現地集合した実行委員は2時からの開催にあたり受付準備に追われたが, さしたる混乱もなく予定通り岩田耕一幹事長(大阪府大)の開催挨拶から始まった。続いて神谷武志先生(文部科学省), 行松健一先生

(NTT エレクトロニクス)から講演をいただいた。その後は, 温泉と浜名湖懐石料理に舌鼓をうち恒例のナイトセッションへと進んだ。ここでは例年好評の石川和枝先生(元上智大学)の物理実験デモや, 実行委員会や参加者希望による研究発表が行われ, 今年はフランスからの参加も見受けられた。

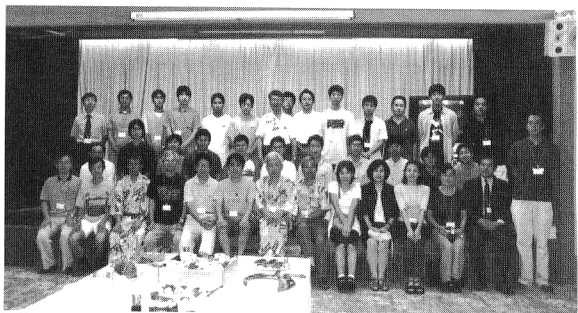
翌日は川上彰二郎先生(東北大未来研), 浦野頼義先生(早大国際情報通信研), 粕川秋彦先生(古河電工横浜研)の講演をいただいた。途中, 講師の方々とのフリーディスカッションに白熱の議論が起こったり, 休憩時間ではうち解けた仲間同志で浜名湖(猪鼻湖)の周りを散策したり, のんびり温泉に入ったりとサマーセミナーならではの雰囲気満喫した。

さて2日目の夜はお待ちかねの懇親会である。酒類飲み放題の立食形式パーティで大いに盛り上がり, そのままカラオケへと進むグループもあった。またこのころになると皆かなりうち解け合い, 寝る間も惜しんで夜が白むまで語り合うグループも多々みられ, これまたサマーセミナーならではの光景となった。

最終日は米田進先生(日本テレコム情報通信研), 小西毅先生(大阪大工研)の講演をいただき, 予定通り1時に大好評(本当です)の中, 無事にサマーセミナーは終了した。

3. セミナーを終えて(感想文)

今回と例年のセミナーの最大の違いは, 光学会だけでなく情報通信分野からの講師および参加者が半数以上を占め, 結果として双方の交流が促進されたことである。また講師や, 参加者からはこれを機会に情報通信において将来の光学が担う具体的役割を議論する開かれた研究会を是非作ってほしいとの声があり, 主催者として大成功の会で



懇親会場にて。

あった。ぜひ近いうちに皆様のご協力で実現できたらと思う。

最後に参加者からの声を載せておこう。最初は田邊衣加さんで古河電工の新人の方である。「今回サマーセミナーに参加して、とても有意義な時間をすごすことができました。最初は堅苦しいセミナーだと思ってかなり身構えていました。しかし、皆が気楽に参加できるように、主催者の方が自らくださった服装に着替える等の配慮をしていただき、必要以上に緊張することなく先生方のお話を聞くことができました。また、参加者一同、寝食をともにすることによって連帯感が自然と生まれ、最初は声をかけづらかった他の参加者の方、講師の方とも何度か顔を合わせていくうちにお話できるようになりました。光技術といってもとても幅広い分野であり、大容量のデータを送信するために必要な半導体レーザーなどのハードの部分から、IP ネットワークなどのソフトの部分までを初心者にもわかりやすく、基礎的なことから最先端の研究までお話ししていただき、とても参考になりました。また、技術的な話以外にも研究の心構えなどを講師の先生の経験や大先生の例を引用してお話をしていただきました。このセミナーは、光技術という広い分野の中で自分の知らない分野の知見を深め、視野を広くするまたとない機会だと思います。このようなすばらしいセミナーをこれからも続けて行って欲しいと思います」。

続いて大阪府大院生の杉本修二さん。「私は昨年に引き続いて参加させていただきました。初めて会う先生方、社会人の方、学生の皆さんとお話しできたことは普段味わえないことです。その中でも特に来年から社会に出て働く私にとって、企業に勤めていらっしゃる方々からいろいろなお話を伺うことができたのは貴重な経験となりました。講演のみならずデモ実験や懇親会などの時間を提供していただき、あっという間の三日間でした。来年以降は参加できるかどうかはわかりませんが、チャンスがあればぜひ参加

したいと考えています」。

次に大阪大院生の古河英昭さん。「今回のサブタイトル「ITを支える光技術」の通り、将来の通信ネットワークの高速化には光技術の導入が必須であり、光の研究者だからこそ開発できる技術を通信分野へ提供していかなければならないと感じました。そして、常に社会の動向に注視し、真に必要とされる技術を見極める広い視野をもつ必要があります。サマーセミナーは、さまざまな所属の人と議論することで自分にはなかった考え方に触れるよい機会でした」。

最後にベテランのNHK放送技研の小林規矩男さん。「私は、第35回光学サマーセミナーのプログラムに大変興味を覚えました。IPv6 (internet protocol version 6) ネットワークを使用する将来の携帯端末に2003年開始予定の地上波デジタルTV放送が受信できる携帯端末を研究開発することが私の当面の課題です。デジタル信号に圧縮したTV放送用映像、音声信号により搬送用電波をデジタル変調したTV番組が、現在家庭に届けられつつあります。このようなデジタル映像、音声信号は光ファイバー用のレーザー光を変調する信号として最適です。光ファイバーを通して (FTTH) 家庭にTV放送が届けられるようになると予想されます。双方向放送が可能となり、通信と放送の融合が進みます。今回のセミナーで、光ファイバーを使ってデジタルTV信号を家庭に送る際の課題をすべて把握することはできません。しかし、私はセミナーに参加してみて眼からうろこが落ちる思いがしました。このセミナーで、机に向かって論文と格闘するとか、応物、通信学会の大会に参加するとかだけでは身につかない生身の研究者の情熱や心構え、若い人から大ベテランの先生方の本音を夜を徹して聞くことができました」。

4. 最後 に

このように今回のセミナーも講師の方々や参加者の皆様、事務局など多数の方のご協力で好評にそして無事に終了することができた。実行委員一同心よりお礼を申し上げます。また予算的にも収支はほぼゼロに収まり、学会行事としては理想的な決算となった。

さて次年度 (2002年) は岩瀬扶佐子実行委員長 (古河電工横浜研) のもと開催する予定である。また皆様方と再会できるのを、そして新たな皆様とお会いできるのを次回実行委員一同楽しみにしている。